

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
グローバル展開プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		グローバル化に対応した人文学・社会科学教育の国際比較			
研究テーマ名		人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究			
研究代表者	所属機関	学習院大学			
	部局	文学部			
	役職	特任教授	氏名	佐藤 学	
委託研究費		23,401千円			
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度		
3,107	9,366	6,158	4,768		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

本研究では、先進諸国における高等教育の人文・社会科学教育の教育方法・内容のイノベーションの展開について、教育学のさまざまな視点や調査・分析手法を使って比較考察し、イノベーションを開発・普及するシステムの相互比較を行うことによって、日本の現状のシステムが帯びた特徴と、改善、克服すべき課題を明確にすることを目的とした。

具体的には、理念やニーズ—政策・制度—実践の3つのレベルの統合体として、イノベーションを開発・普及するシステムをとらえ、それぞれのレベルの国別比較を行うことによって、以下の課題を明らかにする。1) どこまでが先進諸国に共通な（あるいはトランスナショナルな）レベルで共有された、システムの形成や変容の動向となっているのか。2) 先進諸国間にどのような多様性が存在するのか。また、それぞれの国内において、さまざまなイノベーションをめぐるどのような論争や対立、多様性が存在しているのか。3) それぞれの国のイノベーションが、国内的・国際的にどのような回路で拡大・普及しているのか。以上の3点をふまえ、①イノベーションのシステムのあり方における日本の特徴と課題、②国際的に展開するさまざまなイノベーションの動向における日本の選択肢の可能性、およびその選択における基準を明らかにした。

上述の3レベルを「大学と社会」、「政策・制度」、「実践」の3領域に分類したうえで、イノベーションのシステムを比較研究するための諸ディシプリンによる分業と協業を推進し、理念のレベルに関する歴史的・思想的・社会的な分析も行うことにより、日本と諸外国との社会文脈的な相違を明確にした。

本研究の特色は、教育学の諸分野・領域の研究者が協働して、国際的な研究ネットワークにもとづいて高等教育における教育方法・内容のイノベーションに取りくんだ点にある。従来の高等教育研究が主として高等教育関係者や特定の研究領域の研究者集団（日本高等教育学会など）によって限定的に行われてきたのに対して、本研究では、教育学諸分野を総合する研究体制により、①グローバル時代の高等教育がどのような資質・能力を育もうとしているのかを明らかにし、②国際比較により日本の大学改革の方向性を探索する示唆を提示した。